

魚つき林と楯ヶ崎を楽しもう！！

～ 海と森の恵みを味わう旅 ～

平成22年 2月21日（日）

真っ青な大海原と海岸線から海へ乗り出すように生い茂る照葉樹林、そして新鮮で美味しい魚介類。東紀州の海岸部ではこれらがすべてつながっています。いったい東紀州の自然と人間はどのようにして関わり合っていたのでしょうか。海と山そして食との間にある不思議な関係を探るため、ガイドの話聞きながら楯ヶ崎および遊木周辺の海と山をじっくりと歩きましょう。また、お昼にはそんな海と山からたっぷりの恩恵を受けた魚介類を堪能しましょう！



遊木の町



ガマの口



☆この旅の見どころ

魚つき林

魚つき林とは、海岸線に沿うように生息している常緑照葉樹林のことで、主に魚つき保安林として指定されているものをいいます。腐植土から発生する養分が海へ流れ出ることにより、その付近の海では多種多様な魚が住み着くと昔から考えられており、漁師は昔から漁場近くの山林を大切に保護してきました。実際、魚つき林付近の海岸は、赤土の流出による汚染（いわゆる磯枯れ）の発生が少なく、魚や海草類にも良い環境であることが多いです。熊野市遊木町から尾鷲市九鬼町にかけての海岸線は広範囲にわたって魚つき保安林となっているため、沿岸部には良好な漁場が多いです。

楯ヶ崎と海金剛

楯ヶ崎および海金剛は、熊野市の二木島湾入口付近に位置する柱状節理群の一部ですが、その特徴的な外観からこのような名前が付けられています。楯ヶ崎はその名のごとく、海面から空をめがけて突き出る楯のような形をしています。高さ67メートルの巨大な楯は、海上から間近に眺められる他、千畳敷からその全容を見ることができます。一方の海金剛は熊野灘に面する高さ160メートルの断崖絶壁でその姿は海上からでないと眺めることはできません。視界に収まりきらないくらいに巨大な海金剛と、それに打ち付ける白刃の波はまさに驚異の光景といえます！

行 程 表

- 10時 ハマケン水産集合、遊木漁港へ移動
- 10時10分 遊木漁港発出発
熊野灘、二木島湾を周遊し魚つき林を見ながら楯ヶ崎半島へ
- 11時 網代へ上陸後、ガイドの話を聞きながらよく整備された楯ヶ崎遊歩道をゆっくりと散策し、千畳敷へ。神武天皇が上陸したとされる伝説の地千畳敷では熊野灘の雄大さと楯ヶ崎の迫力を満喫できます！
- 12時 千畳敷から遊覧船へ乗船
海からでないとは眺められないド迫力の海金剛やその他柱状節理群、伊豆大島からの漂着者が眠る須野の集落を眺めながら遊木漁港へ帰ります。
- 13時 遊木漁港着、ハマケン水産へ移動し昼食。
遊木でその日に獲れた新鮮な魚介類をふんだんに使った昼食をじっくり堪能していただきます！
- 14時 昼食後、遊木集落を散策。集落はずれの魚つき林に祀られた国市神社や遊木集落を一望できる展望台など、遊木の町中をゆっくり歩きます。
- 15時30分頃 解散

ガ イ ド 紹 介

鈴木 祥嗣 (すずきしょうじ) 氏

1943年(昭和18)3月、熊野市新鹿町生まれ。林業家。
大学卒業後に東京から故郷熊野市新鹿町へ戻り、鈴木家第9代目として林業を継いで現在に至ります。紀南ツアーデザインセンターが企画するツアーのガイドを始めとし、各種エコツアーガイド、講演、シンポジウムへの出演経験多数。

畑中 侘 (はたなかただし) 氏

1945年(昭和20)10月、熊野市遊木町生まれ。漁師。
遊木で生まれ育ち、20歳の頃から現在に至るまで漁業に携わり、遊木を中心とした熊野の海で活躍しています。定置網漁の船長をつとめ、子どもたちを対象とした定置網漁体験なども行っています。NPO法人『熊野ふるさと倶楽部』理事長。